

海外経済

		1月	2月
世界経済		<p>世界の景気は、全体として弱い回復となっている。 先行きについては、弱い回復が続くと見込まれる。ただし、ヨーロッパ地域の一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていること等により、景気が下振れするリスクがある。</p>	(変更なし)
アメリカ		<p>アメリカでは、景気は緩やかに回復している。 先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、高い失業率の継続や住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きや財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、景気は緩やかに回復している。 先行きについては、緩やかな回復が続くと見込まれる。ただし、高い失業率の継続や住宅価格の下落等により、景気が下振れするリスクがある。また、金融資本市場の動向や財政緊縮の影響に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、景気は内需を中心に拡大している。 先行きについては、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や物価の動向に加え、このところの金融資本市場の動きや欧米向け輸出の動向に留意する必要がある。</p>	<p>中国では、景気は内需を中心に拡大しているが、拡大テンポがやや緩やかになっている。 先行きについては、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、不動産価格や物価の動向に加え、金融資本市場や輸出の動向に留意する必要がある。</p>
	インド	<p>インドでは、景気の拡大テンポは鈍化している。 先行きについては、拡大テンポの鈍化が続くと見込まれる。また、物価上昇によるリスクに加え、このところの金融資本市場の動きに留意する必要がある。</p>	<p>インドでは、景気の拡大テンポは鈍化している。 先行きについては、拡大テンポの鈍化が続くと見込まれる。また、物価上昇によるリスクに加え、金融資本市場の動向に留意する必要がある。</p>
	その他アジア地域	<p>その他アジア地域では、総じて景気は回復しているが、回復テンポが緩やかになっている。 先行きについては、緩やかな回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米向け輸出の減少や物価上昇により、景気が下振れするリスクがある。また、このところの金融資本市場の動きに加え、タイの洪水の影響に留意する必要がある。</p>	<p>その他アジア地域では、景気はこのところ足踏み状態となっている。 先行きについては、当面、足踏み状態が続くと見込まれる。また、輸出や金融資本市場の動向に留意する必要がある。</p>
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、景気は足踏み状態にあり、一部に弱い動きもみられる。 ヨーロッパ地域の先行きについては、当面、弱めの動きになるものと見込まれる。また、一部の国々における財政の先行き不安の高まりが、金融システムに対する懸念につながっていることや金融資本市場に影響を及ぼしていることにより、景気が低迷するリスクがある。さらに、各国の財政緊縮による影響や、高い失業率が継続すること等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)